研究ノート

実習前の保育体験が学生の意欲に与える影響

Effects on Students' Motivation on Learnings from one-day Internship in Nursery School：
Focusing on Students without Experiences of Official Internship

富　山　大　士[i)]　　本　多　　舞[ii)]
TOMIYAMA, Futoshi　　HONDA, Mai

キーワード：保育者養成、保育体験、学びの意欲

１．本研究の背景

実習を通して保育者としての体験を行うことで経験を重ね、卒業後に保育者になることに対する期待感が醸成されていくことが望まれる。しかし、実際には、実習における学生側の戸惑いが直接の原因となって、保育に対する期待感が失われてしまう現象もみられる。幼稚園教諭免許や保育士資格を有する保育者となるための教育実習（幼稚園）や保育実習（保育所・福祉施設）における戸惑いが原因で保育者になる意欲までもが失われてしまうとしたら、それは非常に大きな問題と考えられる。保育者養成課程において、実習前の保育体験の機会を設けることで、少しでも教育実習や保育実習に臨む前の学生の不安や戸惑いを解消することは重要である。

日本全国の保育者養成校を対象とした質問紙調査（2016年度～2017年度に実施）によると、保育実習に先立つ体験的学習の実施率は、２年制短期大学・３年制短期大学・４年制大学を合わせて、実施率が64%に達していることが報告されている[1)]。この報告は、「保育実習に先立つ体験的学習」の意義として「子どもとふれあう体験」「子ども本来の姿のイメージ」「講義の理解」という３つの視点で解析がなされている。

また、２年制短期大学において、まだ保育現場のイメージが十分に形成されていない大学入学後間もない学生が保育の場の見学をすることで、乳幼児が過ごす場の保育環境や、保育自体への具体的なイメージが形成されていく効果があり、履修中の教科の理解と関連づけて保育に関する理解が深まることが富山らにより報告されている[2)]。

しかし、この先行研究は２年制短期大学における保育の場の見学に対する効果の研究であり、４年制大学における保育体験の効果は研究されていない。

本研究では、東京都内の４年制Ａ大学の２年生を対象として、「保育実習Ⅰ（保育所）」に先立つ保育体験を６・７月に３回に分けて、全学生に１回ずつの保育体験の機会を提供した。保育体験の直後に学生を対象とした質問紙調査を行い、保育体験が学生に及ぼす効果を検討した。

Ａ大学における今回の保育体験が、保育学生の保育の理解にどのような意義として捉えられ、学びとなったのかを調査し、今後の同様の取り組みの際の改善事項を明らかにすることを目的とした。

２．研究の方法

２－１）保育体験を実施する認可保育所への配当

東京都、埼玉県および千葉県の合計21か所の認可保育所に、２年生112名と３年生１名の合計113名の履修生を、2021年６月５日（土）、2021年７月10日（土）および2021年７月20日（火）の３日程に分散配置し、保育所の割り当てを表１のように決定して派遣した。

表１　保育体験学生の保育園割り当て

No.	体験日	訪問園（都・県）	体験時間	派遣学生人数
1	6/5(土)	Ａ園（東京区部）	9:00～16:30	２名
2		Ｃ園（東京区部）	9:00～16:30	４名
3		Ｄ園（東京区部）	9:00～16:30	４名
4		Ｅ園（東京区部）	9:30～12:30	２名
5		Ｆ園（東京区部）	9:00～16:30	２名
6		Ｈ園（東京区部）	9:30～12:30	２名
7		Ｉ園（東京区部）	9:30～12:30	２名

ｉ）こども教育宝仙大学　准教授
ⅱ）こども教育宝仙大学　専任講師

8		J園（東京市部）	9:30〜16:30	2名
9		L園（東京市部）	9:30〜16:30	1名
10		N園（東京市部）	9:30〜16:30	2名
11		P園（千葉県）	9:30〜16:30	1名
12		R園（埼玉県）	9:30〜16:30	2名
13	7/10(土)	A園（東京区部）	9:00〜16:30	2名
14		B園（東京区部）	9:00〜12:30	2名
15		C園（東京区部）	9:00〜16:30	4名
16		D園（東京区部）	9:00〜16:30	4名
17		E園（東京区部）	9:30〜12:30	2名
18		F園（東京区部）	9:00〜16:30	2名
19		G園（東京区部）	9:00〜16:30	1名
20		H園（東京区部）	9:30〜12:30	2名
21		I園（東京区部）	9:30〜12:30	2名
22		J園（東京市部）	9:30〜16:30	2名
23		K園（東京市部）	9:30〜12:30	2名
24		L園（東京市部）	9:30〜16:30	1名
25		M園（東京市部）	9:30〜12:30	1名
26		N園（東京市部）	9:30〜16:30	3名
27		O園（東京市部）	9:30〜12:30	1名
28		P園（千葉県）	9:30〜16:30	1名
29		Q園（埼玉県）	9:30〜16:30	1名
30		R園（埼玉県）	9:30〜16:30	1名
31	7/20(火)	A園（東京区部）	9:00〜16:30	4名
32		B園（東京区部）	9:00〜12:30	2名
33		F園（東京区部）	9:00〜16:30	1名
34		G園（東京区部）	9:00〜16:30	3名
35		H園（東京区部）	9:30〜12:30	4名
36		I園（東京区部）	9:30〜12:30	3名
37		J園（東京市部）	9:30〜16:30	4名
38		K園（東京市部）	9:30〜12:30	3名
39		M園（東京市部）	9:30〜12:30	2名
40		N園（東京市部）	9:30〜16:30	5名
41		O園（東京市部）	9:30〜12:30	2名
42		P園（千葉県）	9:30〜16:30	2名
43		Q園（埼玉県）	9:30〜16:30	1名
44		R園（埼玉県）	9:30〜16:30	3名
45		S園（東京市部）	9:30〜16:30	2名

2―2）保育体験に先立つ事前・事後教育

対面授業形式で、保育所の一日の生活、0〜5歳児の保育ビデオからの子どもの姿の読み取り、エピソード記録、礼儀・マナーの教育を実施した。

第一回訪問6/5（土）の園訪問学生が体験談を第二回訪問7/10（土）に語り継ぎ、第二回訪問7/10（土）の園訪問学生が体験談を第三回訪問7/20（火）に語り継ぎ、第三回訪問7/20（火）の園訪問学生も含めて全体で保育体験を振り返るというスタイルで、学生から学生への学びの伝承を重視した。

2―3）保育体験の後の学生への質問事項

各学生の保育体験の日から1週間以内の期限を設定し、以下の8項目を学生一人ひとりがフォーム入力する形で質問調査した。

1．最も印象に残った子どもの姿・エピソードを1つ書いてください。具体的な「子どもの言葉（1〜2個)」にも触れるとよいです。
2．1．に関して、そこで自分の感じたことを書いてください。
3．園職員（園長先生や保育士等）とのお話や、実際の保育等から学んだこと・印象的なこと等を書いてください。
4．食事提供があった園の人への質問です。献立は何でしたか。食べてみて気づいたことや感想を記入してください。食事提供のなかった園の人は「なし」と記入のこと。
5．次回訪問予定の学生に向けて伝達しておきたいことを書いてください。
6．今回の保育体験を通して、保育士になりたいモチベーションに変化がありましたか
7．6．のように回答した理由を書いてください。
8．全体的な感想等を記入してください。

倫理的配慮

研究目的や概要を、授業にて履修学生に伝えた。学生が記入した質問紙記入内容に関しては、解析した結果を学生氏名が特定されない形で学外に発表することがある旨の了解を得た。質問調査は電子的にフォーム入力の形で行った。

見学園に対しては、園児や園職員等の個人情報が特定されない形で情報を解析し、得られた知見を園に報告するとともに、学外に発表することもあることに了解を得た。

2―5）解析方法

樋口（2004）の開発したテキストマイニングソフトウエア KH-Coder（Version 2.00f）[8)9)]を使用し、質問紙調査によって得られた語の相関に関する計量解析を行って共起ネットワークを導出し、園見学によって得られた効果を解析した。

３．共起ネットワーク解析結果及び考察

共起ネットワークとは、テキストからそのテキストを特徴づける語の抽出を行い、特徴語同士の共起関係をネットワーク図にしたものである。テキストの中の隣接する語と語の関係性が強いものが線で結ばれている。共起ネットワークにおいては、出現回数の多い単語が大きな円で囲われている。ネットワークの中心の単語ほど濃くなっている。

本研究において共起ネットワ―ク解析を用いたのは、多くの学生が共通して回答に使用した語及びそのネットワークの中に、学生たちの共通の傾向を見出したいと考えたからである。

本研究ではJaccard係数を0.3とし分析を行った。Jaccard係数は類似性の指標であり、語と語の共起関係を表すものとして広く使用されている。

３―１）「園職員とのお話や、実際の保育等から学んだこと・印象的なこと」の共起ネットワーク

「園職員とのお話や、実際の保育等から学んだこと・印象的なこと」に関する共起ネットワークを図１に示す。

多くの学生が「子ども」「保育」「遊び」の語をあげており、保育のなかで子どもと実際に関わり、見て感じる中で学びを深めたことが推察される。

３―２）「次回訪問予定の学生に向けて伝達しておきたいこと」の共起ネットワーク

「次回訪問予定の学生に向けて伝達しておきたいこと」の共起ネットワークを図２に示す。

図２において、「子ども」「思う」「保育」「緊張」が強くつながっている。

初めての現場体験で最初は緊張はあるが、その中でも保育の中で子どもと出会うことを楽しみにすることを、次回訪問学生に向けて伝えたいことがわかった。

３―３）「今回の保育体験を通して、保育士になりたいモチベーションが高まった理由」の共育ネットワーク

「今回の保育体験を通して、保育士になりたいモチベーションが高まった理由」の共起ネットワークを図３に示す。

「子ども」「保育」を中心に「自分」「関わる」「思う」「楽しい」という語と強く結びついていることがわかる。

学生たちが、実際の保育現場で子どもたちと関わることで、思いや感じることもあり、それが楽しさに結びついたと考えられる。

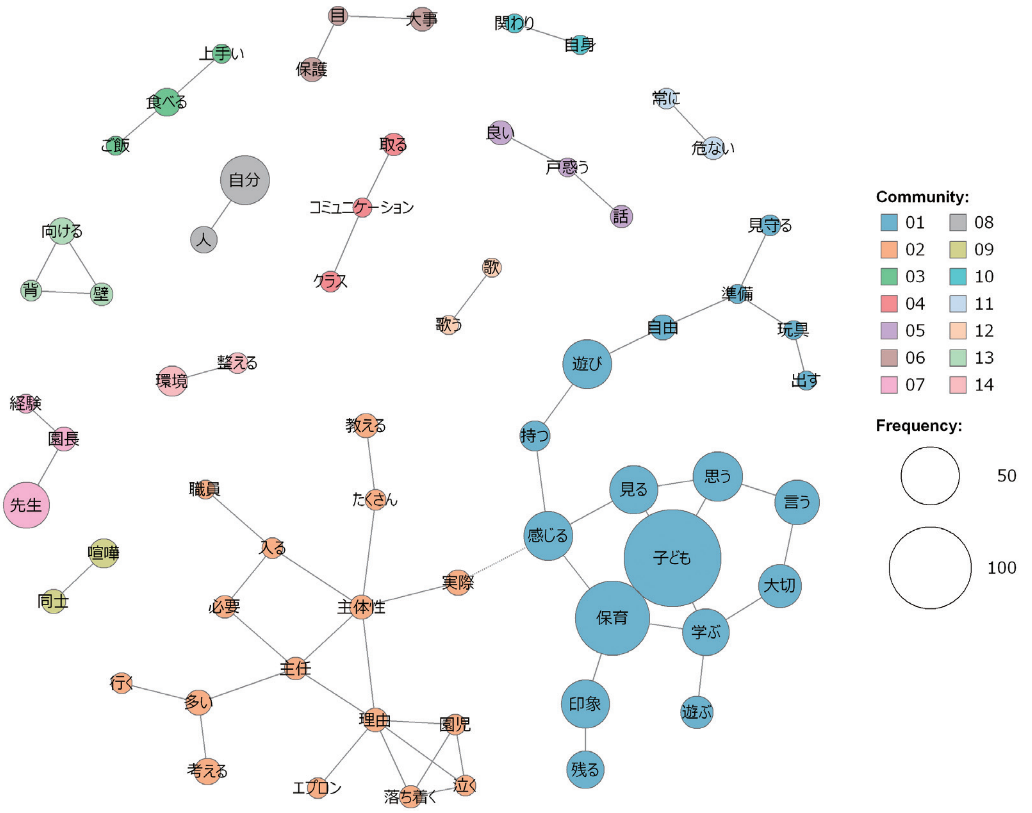

図１　「園職員とのお話や、実際の保育等から学んだこと・印象的なこと」の共起ネットワーク

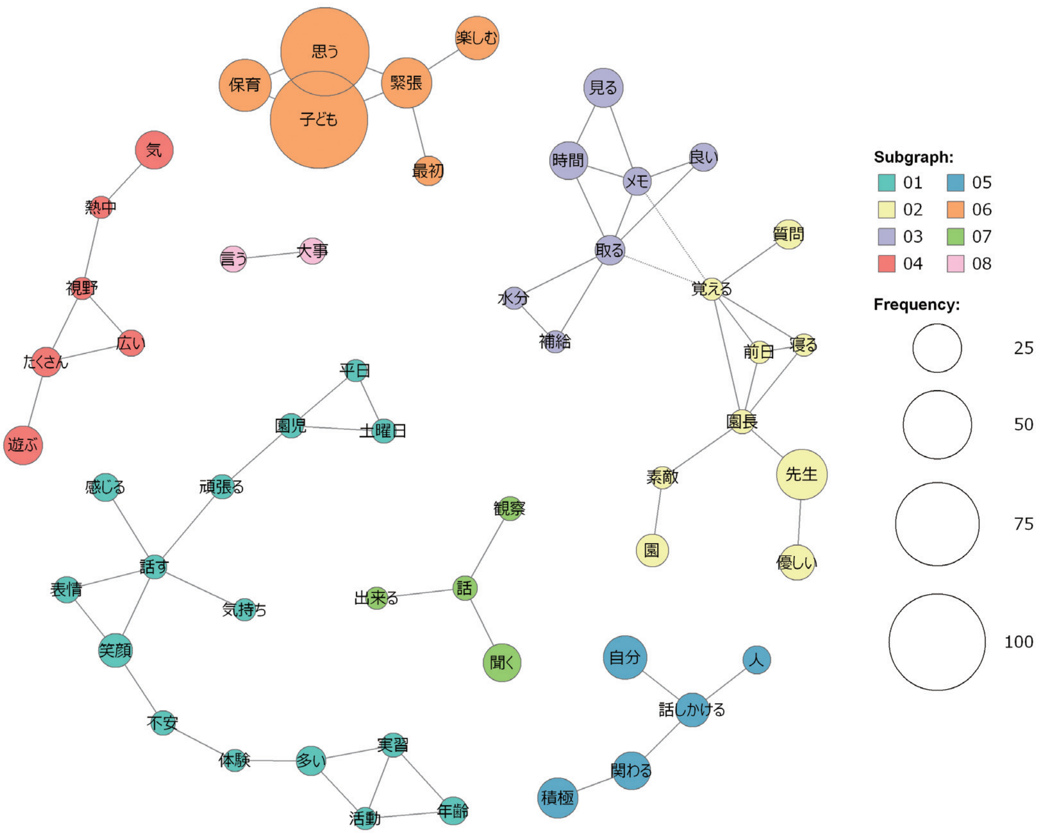

図２「次回訪問予定の学生に向けて伝達しておきたいこと」の共起ネットワーク

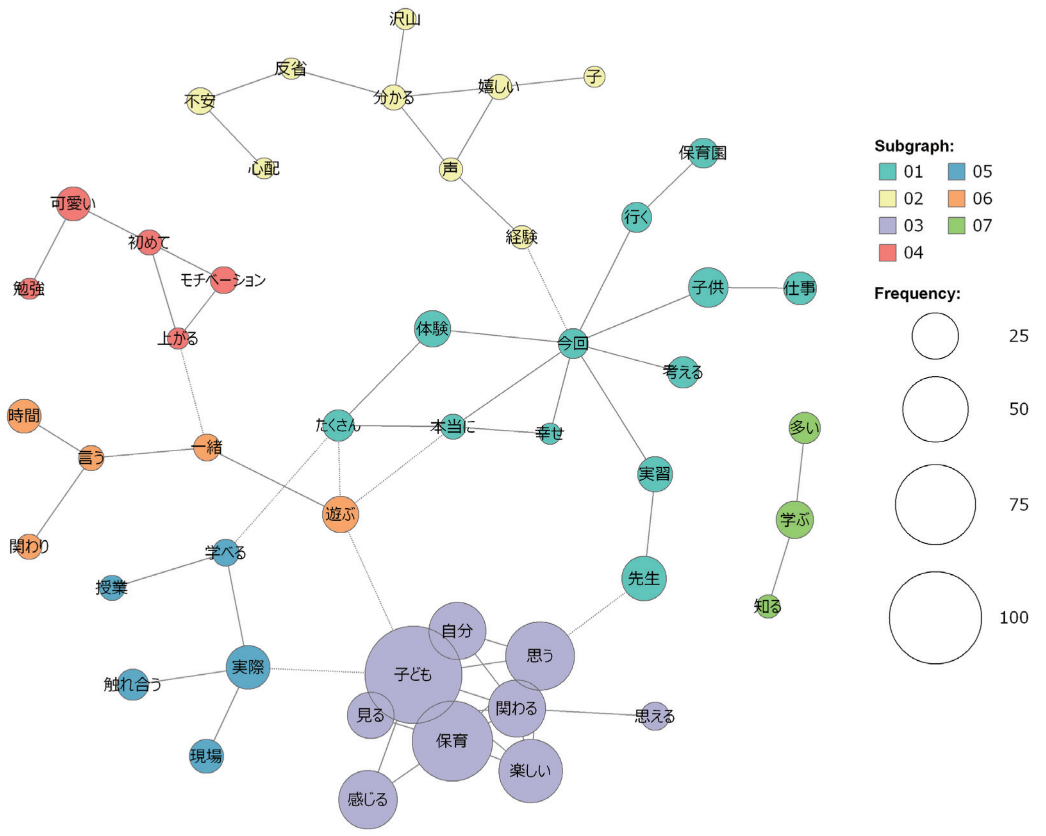

図３「今回の保育体験を通して、保育士になりたいモチベーションが高まった理由」の共起ネットワーク

保育体験参加者のうち、有効回答を記した110名の学生のうち、108名から「今回の保育体験を通して、保育士になりたいモチベーションが高まった」との回答があった。逆に「今回の保育体験を通して、保育士になりたいモチベーションが下がった」との回答もあった。その理由は「想像以上にやることが多く、自分に出来るか自信がなくなった」「自分に務まる気がしない」との回答であった。このことは、実際の保育体験を通して、保育の専門性について強く感じたからこその回答であったと思われ、単に楽しいだけではないという職業としての保育士の姿を感じたのであろう。

また、「とても効果があったと思われる項目」としての回答数は、「保育現場のイメージがついた」が102名、「園としての保育環境についてのイメージがついた」が107名、「園生活のイメージがついた」が99名であった。現場イメージをつかむことには効果があったと理解できよう。

また、110名中の28名のみ（25.5%）の回答ではあるが、「授業と現場イメージをつなげやすくなった」という回答もあった。

「授業と現場イメージをつなげやすくなった」と回答した学生が25.5%にとどまった理由を丁寧に掘り下げていくことが大切である。これらの学生について自由記述を見ると、例えば「４歳児クラスにて歌っていた曲が、偶然、今習って入れる曲と同一であった」という回答が見られる。「授業で扱われていることと同一の内容を偶然、保育現場で見かけた」ということが「授業と現場イメージをつなげやすくなった」という回答につながっていると推察される。

保育体験における学習効果としては、現場における保育環境や園生活、保育者の動きについてのイメージは掴めたようであるが、乳幼児の発達等の理解は難しいようであった。

４．まとめ

保育士資格・幼稚園教諭免許の取得を目指して保育者養成校に入学する学生には、保育所・幼稚園・認定こども園における保育の具体的なイメージを持っていない場合が多い。さらに、乳幼児と関わった経験が乏しく乳幼児に関するイメージをすることが困難な場合もある。

本研究では、学生を対象に、入学後早期の６・７月に保育所での保育体験をすることにより、学生が保育環境や保育に関して具体的なイメージを形成していることを確認することを目的として、保育体験後に質問紙調査を行った。

園職員とのお話や実際の保育等から、保育のなかで子どもと実際に関わり、見て感じる中で学びを深めたことがわかった。また、初めての現場体験での緊張はあるが、その中でも保育の中で子どもと出会うことを楽しみにすることの大切さを学生が感じていることもわかった。実際の保育現場で子どもたちと関わることで、思いや感じることもあり､それが楽しさに結びついたと考えられる。

保育体験を通して、乳幼児が過ごす環境の違いや保育内容の実際に気づいたことが質問紙調査により明らかになった。また、保育の場の見学での気づきが、その時に履修している科目の理解とも有機的につながっていく様子も明らかになった。

「今回の園見学により、とても効果があったこと」という質問項目に対して、見学した学生の25.５%ではあるが、「授業と現場イメージをつなげやすくなった」という回答が存在したことに注目したい。まだまだ２年生春学期の時点での保育の理解は浅い状況であろうが、保育現場のイメージを十分に持たないままに学内の授業を受ける状態では、教員の伝えたいことが十分に学生に伝わりにくいことと考えられる。その意味で、「授業と現場イメージをつなげやすくなった」という回答が25.５%であれ存在したことで、学生が求める今後の授業展開のヒントとし、実習前の保育体験により乳幼児の過ごす場の保育環境や、保育自体への具体的なイメージを持つようにすることで、今後の実習に繋がるように、授業展開をさらに工夫していくことが大切であると考えられる。

謝辞

本研究にご協力くださいました21か所の保育所の皆さまに心より感謝申し上げます。

また、本研究全体の計画・遂行・結果の検討についてお力添えいただきました保育所先生方に厚く御礼申し上げます。

引用・参考文献

［１］ 吾田富士子・浦田雅夫・仙石美千代・岡本依子・脇信明「学生の自己成長感じを保障する保育実習指導のあり方Ⅱ～ヒアリング調査からの検討～」保育士養成協議会専門委員会　平成27年度　課題研究報告　p. 7 http：//www.hoyokyo.or.jp/profile/senmon/research_report28.pdf

［２］ 富山大士・浅井拓久也・中村陽一・塩崎みづほ・豊泉尚美「短期大学入学後早期の学生が、保育現場の環境及び保育を見学する意義」（2019）秋草学園短期大学紀要，(35)，119-128.

［３］ 幼稚園教育要領（2017）（フレーベル館）

［４］ 厚生労働省通知 「指定保育士養成施設の指定及び運

営の基準について」(平成27年３月31日、厚生労働省雇用均等・児童家庭局長通知、雇児発0331第29条)

［５］ 一般社団法人全国保育士養成協議会（2017）『保育実習指導のミニマムスタンダード2017年版』

［６］ 保育所保育指針（2017）(フレーベル館)

［７］ 茗井香保里編著（2017）「新保育所保育指針（平成29年告示）における『安全』の記述について」『幼稚園・保育所・施設実習　―子どもの育ちと安全を守る保育者をめざして―』 p. 7. (大学図書出版)

［８］ 樋口耕一（2004） テキスト型データの計量分析―２つのアプローチの峻別と統合 『理論と方法』 19(1) pp. 101-115. (ナカニシヤ出版)

［９］ 樋口耕一（2014）『社会調査のための計量テキスト分析　―内容分析の継承と発展を目指して―』(ナカニシヤ出版)